

富士のさと ボランティアキャンプ 2019

期日：平成 31 年 3 月 9 日（土）～ 3 月 10 日（日）1泊2日

○目的

今までのボランティア活動を振り返るとともに、ボランティアでの経験が今後の社会の中でどのように生きていくのかを考える。また、ボランティアへの想いを参加者同士で共有することで、ボランティアの意義や価値観を再発見し、今後のボランティア活動の意欲を高める。

○参加者

高校生 1 名・大学生 17 名・社会人 2 名
日帰り 6 名 計 26 名

○事業の内容

(1) 富士のさと 運動会①（仲間づくり）



(2) 富士のさと 運動会②（チームビルディング）



参加者同士の緊張をほぐし、交流を深めるために運動会を行いました。色ごとにチームに分かれ応援旗を作成し、玉入れ・障害物走・3人4脚・借人競争・棒引き・リレーなどの種目に取り組み思いっきり身体を動かしました。楽しみながら初対面の参加者とも打ち解ける姿が見られ、この後のふりかえり活動に向けた話しやすい関係づくりができました。

(3) ボランティア活動のふりかえり①～これまでをふりかえる～



今までのボランティア活動を振り返り、活動で何を感じてきたのか、何を学んだのかを思い起こしながら話し合いをしました。その後は、お互いの話を聴く中で「いいな」と思ったことを見つけ合い、今後のなりたい自分像について考え合うワークショップを行いました。それぞれの想いや価値観を共有することで、お互いに刺激を受け合う様子が見られました。

(4) ボランティア活動のふりかえり②～これからを考える～



夜の時間では、ボランティアでの経験が今後の社会の中でどのように生きていくのかについて話し合いました。また、リーダーシップをキーワードに、自分はボランティア活動をする中でどんな特徴があるのか自己分析を行いました。最後はペアトークの時間を設け、今後のボランティア活動での目標や想いを語り合いました。

(5) ボランティア活動のふりかえり③～感謝×エール×パトタッチ～



2日目は大学を卒業する4年生を囲んで謝恩会を行いました。4年生以外の参加者からは、4年生への感謝の想いとエールを歌に込めて贈り、4年生からは出し物のレクチャーという形で想いを話し、お互いにエールの交換をしました。涙を堪えながらお互いの想いを伝え合い、それぞれの今後の活躍を祈り、今年度最後のキャンプを締めくくりました。

【参加者アンケートより】

- ・自分自身の活動を振り返ることは非常に貴重な機会だった。今後はボランティアで学んできたことを活かして学校教育の内側から、よりよいものにしていけるよう努力し続けたいと思う。
- ・ボランティア同士で「想いを共有」することは良いなと思った。次年度のモチベーションにもつながった。
- ・たくさんの人から想いや話を聴いて、自分にはなかった新しい価値観が生まれた。今後もできる限りボランティアに参加し、参加者に何か1つでも持って帰ってもらえるように活動したい。

《成果と課題》

- プログラムの企画から運営までをボランティアが行うことで、参加者のニーズにあったキャンプを実施することができ、多くの参加者から来年度への活動意欲が高まったという声が聞けた。
- 今までのボランティア活動を参加者同士ふりかえることで、これまでの学びや想いを共有するとともに、これからの目標について語り合う場面が見られた。
- 企画を進めていく中で企画者同士の都合が合わず、プログラム内容の決定に遅れが生じ十分な検討時間が持てなかった。本番までの期日に焦り、職員の代案で決定してしまう部分も多かったため、企画者に対して本番までのスケジュールを意識させるためのタスク管理や進捗状況の確認等のフォローを適宜行う必要があった。